

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873101067		
法人名	株式会社 ニューライフ三浦		
事業所名	グループホーム ニューライフ三浦		
所在地	〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡4347-4		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町村受理日	平成25年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokuhyou.in/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873101067&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokuhyou.in/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873101067&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成24年10月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員としての役割を担い、地域との交流を積極的に実施しており、多くのボランティアさんにも支えてもらっている。近隣に運営母体の病院があり、週に2回医師が往診に来て、利用者の健康状態を把握し、適切な医療が受けられるように支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年設立の認知症ケアに豊かな経験を有するホームであり、近隣住民とは地域の子供たちの登校を見守ったり、ごみ収集場所としてホームの敷地の一部を提供するなど町内会の一員として自然な付き合いを重ね、散歩の途中では声をかけ合う親しい関係が出来ている。また地域のさまざまな人達がボランティアとしてホームを訪れることで利用者は変化と楽しみのある生活をしている。母体医療機関の医師や看護師が24時間いつでも対応できる体制ができており、また定期的な往診で利用者の健康管理が適切に行われ健康・医療の面で安心して過ごせるようになっている。施設長がホームの運営に熱心に関わっていることで管理者・職員は安心して利用者本意のケアが出来ており、利用者は常に率直な思いを伝えながら伸び伸びと暮らしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は地域との交流を共有し、近隣の小学校の立哨ボランティアや、小中学校の職場体験の受け入れ等、区長・民生委員・学校長・役場との面談等を通し実践している。	地域密着型サービス事業所としての意義や役割等を意識して作られた開設当初からの理念を大切にしており、月1回のスタッフ会議等で常に話し合い職員間での共有を図り、日々理念を意識したケアが出来るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、区長、民生委員との話し合いも大切に、小中学校からの職場体験の受け入れ、病院看護師の研修の受け入れ等、場所の提供、行事への参加もしている。	町内会に加入しており、町内の一斉清掃や缶拾い、地域の催事等に地域の一員として参加している。近隣住民のゴミ集積所としてホーム敷地を提供したり、小学校の立哨ボランティアをしたりして近隣住民と親しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区長、民生委員を中心に地域との情報交換に努めている。また、自治会にも加入し地域住民との結びつきが密になるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、行政・区長・民生委員・小学校長の意見を求める機会を確保している。	区長・民生委員・小学校長・市の担当者等の出席を得て2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況を報告し、各出席者から意見や助言等を頂きホームの運営に反映させている。また地域の認知症高齢者への対応や介護認定についての相談を受ける等、出席者同士の情報交換の場としても活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用者状況を報告するとともに、運営状況等を役場に相談、報告して連携を図るようにしている。	運営推進会議等でホームの実情を詳細に報告して日頃のケアサービスの状況を積極的に伝え、情報の共有を図っている。市の担当職員とは気軽に相談できるような関係が出来ている。また中学生の職場体験等の受け入れの協力も出来ている。	

茨城県 グループホームニューライフ三浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法律で禁止されていることを共通認識している。玄関も施錠はしておらず、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	職員は年2回の外部研修を受講し、受講後ホーム内で全職員に伝達研修を実施したり、初任者研修のメニューに入れる等して、全職員は身体拘束による弊害も含めて拘束についての正しい知識を身につけ常に拘束のないケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待の意味を理解し、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修や外部研修に積極的に参加し、啓発に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面を用いて説明し、不明な点は、その都度答対応するなどして理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所の前に意見箱を設置している。また、家族会を実施し施設運営に関する意見を聞いている。	家族の面開時には職員から積極的に声かけをして話しやすい雰囲気を作っている。また運営推進会議や家族会等の機会にも意見・要望を聴き、利用者の要望・意見は本人から聞くと共に家族を通して聴いている。出された意見・要望は施設長も含めて全職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い、職員の意見・提案を聞き、施設運営に反映させている。	管理者と職員は気軽に話し合える関係が出来ており、毎月の職員会議や日々のミーティング等でそれぞれの意見やアイデアを積極的に出し合っている。話し合いの結果は管理者と施設長が検討し運営に反映させている。ホームの備品購入や勤務表作成等は職員の意見や要望を取り入れながら行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に状況に合わせ、勤務体制の見直しを行っており、要望に応えられるよう柔軟な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々のレベルに応じ、研修へ行かせたり、本人の希望で研修に行けるようにアシストしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設を使用し地域のイベントを開催したり、近隣のグループホームに見学に行ったりと交流の機会を持っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とじっくり話し合い、これまでの生活状況や希望を聞き、本人の求めていることや不安に思っていることを受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや施設に求めていることをじっくり聞くようにし、親身になって、今後どのようにケアしていくかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用者と家族の求めていることをじっくり聞かなかで、どのような支援が必要なのかを判断している。事業所内のサービスで対応できないときは、必要に応じて他のサービスの利用の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を家族のように思い、一緒に笑い、一緒に寂しさを分かち合い、本人と時間をかけて関わっていく中で信頼関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談はもちろん、日常の変化を伝え、共有していくように努め、協力関係ができるようにしていく。行事などの参加を呼びかけ本人との共有時間の提供を行う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの人間関係や社会性の継続のためにも、親戚、知人、友人などの来訪や出かけやすい雰囲気を作り努めている。	行きつけの美容院や銀行へ行ったりとホームにいても自宅で関わっていた人や機関とのつながりを維持できるよう支援している。また法事や墓参りなど家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係継続を大切にしている。敬老の日やクリスマスなどのイベント等で訪れるボランティアも地域の方々が多く、懐かしい人との出会いの機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように、会話の中で職員も一緒に入り、うまくコミュニケーションがとれるよう支援している。日常生活の中で、一人ひとりの個性を活かす配慮に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も安否確認を行ったり、必要に応じて家族の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、声かけ・話し合いを心がけている。意思疎通が困難な方でも表情や仕草を観察し、本人の望む暮らしを理解・把握できるよう努めている。	お茶の時間や居室で職員と1対1になった時にゆっくり話を聴き日誌や連絡帳に記録して職員間での共有を図っている。言葉での表現が困難な利用者の中には表情の変化を見逃さず職員から話かけをして本人の思いにそった聴き取りをし、記録をしている。記録を基にミーティング等で本人の意向を大切にしながら話し合いを行い、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からの話や、家族や支援者から様々な情報収集し、ケアにいかせるよう努めている。		

茨城県 グループホームニューライフ三浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活リズム、心身状態を含め、できることの把握、能力の引き出しに努めている。日々の生活活動への自立支援、もしくは一緒に行なうよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聞き、反映させている。状況等変化した場合には、カンファレンス以外でも意見交換をし、新たなニーズに即した対応をするように努めている。	本人の思いや家族の意向を基に職員のアイデアや気づきを取り入れ、利用者の日々の暮らしに反映できる介護計画を作成している。全職員が参加してモニタリング・カンファレンスを実施して定期的な見直しを実施すると共に状態に応じた随時の見直しも実施している。	日々の記録(ケース記録)は記入しやすい様式を活用して、全職員が介護計画を意識しながら統一した視点で記録できるように話し合われることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には細かくケアの実践、結果、気づいたこと、工夫点を記入していて、この情報を共有している。また、カンファレンス等を通し、その後の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望・家族の希望、様々なニーズに対して柔軟な支援、サービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、近隣小中学生の体験学習、町内の行事参加、スーパーへの買い物、理美容院、外出ドライブ等茨城町の資源を多く活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院の受診を入居後も継続している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援しており、家族が付き添う場合には利用者の状態を文書にして伝え、受診結果は口頭で連絡を受けそれぞれの受診記録に記入し、検査によるデータはケース記録に添付して全職員で情報を共有している。協力病院の医師による往診も頻回にあり何時でも適切な医療が受けられるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は介護職員への伝達を的確に判断し、かかりつけ医・専門医への早期受診において円滑にいくように努めている。また、看護職員には昼夜を問わず連絡できる状況になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を医療機関に提供しているとともに、医療機関からも情報提供書を頂く等、連携をとっている。定期的に本人の様子を伺い、戻りやすい環境づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化、終末期に向けた方針を話し合い、家族に意向を汲み取り、理解が得られるように努めている。事業所で可能な事も説明し、医療機関との連携を大切にしている。	24時間何時でも対応できる医師・看護師が確保されており、看取り指針に基づいたケアの出来体制が整っている。重度化した場合には家族・医師・看護師等全職員が話し合いその都度文書にしてお互いが協力しながら看取りケアに取り組んでいる。職員は常に看護師の指導を受けながら重度化した場合のケアや看取りケアについての研鑽を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアル等はあるが、実際の応急手当や蘇生術の実際には至っていない。その程、施設長(看護資格者)の指示にて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。消防署の協力・指導のもと、全職員で避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。非常食も保管している。	昨年の震災時には近所の方々からの支援も多く寄せられており、年2回の避難訓練には近隣住民の参加を得て夜間想定訓練が実施される等、地域の住民との協力体制が築かれている。また1階を出火元として外階段を使つての避難を実施するなど具体的な訓練を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々への声かけ、個人情報等については、細かくスタッフ間でも周知徹底している。	人生の先輩であることを常に意識しながら、一人ひとりの特性を把握してその人に合った言葉かけを工夫している。トイレ誘導時は他の利用者に気付かれないような言葉かけを工夫したり、入浴に際しては利用者の希望があれば同姓介助等も実施している。	

茨城県 グループホームニューライフ三浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを大切にし、本人の意思やペースに合わせている。意思表示の困難な方でも、表情や仕草を観察し、押し付けるような支援をしないよう留意する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの調子や気分配慮しながら、本人のペースに合わせて支援していけるように努めている。なるべく希望に添えるよう個々を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理美容が来所し、カラーリング等のおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが一緒にゆっくりと食事をしている。なるべく四季を感じる食材を提供している。食欲のない時などは食べやすい物にするなど工夫している。	食材は地域の専門店から新鮮なものを仕入れて、季節感のあるおいしい食事作りを常に心がけている。面会の家族には味噌汁を提供したりして共に食事を楽しんでもらうこともある。職員も一緒にテーブルを囲みさりげないサポートをしながら会話を楽しみゆっくり食事をしてきた。体調によっては食事時間をずらす等一人ひとりがおいしく食べられるような配慮もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量のチェックは毎回行っており、いつでも確認できるようにしている。利用者に合わせ食事の内容や水分量を配慮し、摂取できるよう援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を認識し毎回実施している。また、週1回歯科往診にて口腔ケアや診察を行っている。		



茨城県 グループホームニューライフ三浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンや失禁状況を把握することに努め、トイレの声かけ、誘導を行っている。	利用者各人の排泄パターンを把握しており、一人ひとりに応じた声かけをして日中は全員がトイレで排泄できるよう支援している。夜間はそれぞれに応じてポータブルトイレやオムツを使用して安全・安眠を確保できるような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多くバランスのとれた食事を心掛けている。水分量のチェック、軽い運動を行うなど援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は楽しみの一つであり、希望に合わせて入浴日、時間を合わせている。ゆっくり入れるように工夫している。	毎日入浴できるようにしており、利用者の希望や習慣によっては夜間の入浴にも対応できるようにしている。入浴を好まない利用者の場合でも週2日の入浴が出来るよう声かけ等誘導の工夫をしている。また菖蒲湯・リンゴ湯・柚子湯等の季節の楽しみもとられて入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を確保しながら、個人に合わせて適度な運動をし、夜間の睡眠が促せるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服者一人ひとりの薬の効能を知り、医師の指示通りに内服できるよう支援している。少しでも変化のある場合には、ただちに連絡・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出ドライブ、買い物、料理(おやつ作り)も個別に考えアプローチしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外出ドライブなど利用者の希望に合わせて行っている。	天気の良い日には中庭を散歩したり、近所の庭を拝見させてもらったりと日常的に外出をしている。また毎日のようにベランダで日光浴をしながら外気に触れている。ホームの行事として四季折々のドライブや外食等気分転換の外出も積極的に取り入れている。	

茨城県 グループホームニューライフ三浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身の意向と能力に応じ、自分で金銭を所持することもある。一緒に買い物に行く際には、金銭のやりとりを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようにしている。手紙もスタッフで切手の購入や投函の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓ガラスも採光が入るように広く設計しており、利用者は四季折々の景色を楽しむことができる。季節感を感じられるような花や装飾なども工夫し、落ち着いた空間づくりを目指している。	トイレや浴室は広々と清潔で利用者の機能低下にも備えている。居間にはソファや木製の椅子を置いたり、利用者の状態に応じてベットを置いたりして何時でもゆっくり休めるように工夫してあった。また季節の花を飾ったり見やすい時計・カレンダー、エレベーター内の香り等、利用者が安心して暮らせるようにとの職員の配慮が随所に見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人の時間を過ごしたり、ホールのソファ等で入居者同士がくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、人形などの生活用品を自由に持ち込んでいただき、その人らしい部屋づくりをしている。	洗面台のある畳とフローリングの居室があり、身体の状態や好みによって選択できるようになっている。各居室は趣味の本やぬいぐるみ・家族の写真等それぞれの大切なものやこだわりの品々に囲まれて落ち着いて安心して過ごせるようになっている。また家族用の椅子を用意している居室等もあり、一人ひとりが居心地良く過ごせるようにとの職員や家族の配慮が各居室に見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の能力を見極め、目印をつけたりして、混乱を防ぎ安全に暮らせるよう工夫している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	日々の記録様式を、もう少し詳細に記録できるように、記録内容の検討をする。	記録様式や利用者様状況等の記録の仕方については、全職員と管理者と話し合いを持ちながら良い方法をみいだせるよう努力する。	・記録様式はどうか。・利用者様の状況が人目で理解でき、更に緊急時、そのファイル持参で、利用者様の情報が、医療機関等ですべて開示できるような内容の記録物を作成する。ケアマネが記録している支援経過なども常に参照できる場所に設置	12ヶ月
2				・定期的に話し合いを持つが、今現在の書式を大幅に変更するには至っていない。記載の仕方になれてしまい、全部を変更することに戸惑いがみられる。今後更に話し合いをもつことで、良いものができればと考える。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。